

あらゆるかたちの

2023

HIV

関連スティグマ・
差別を解消するための

グローバルパートナーシップ



目次

キーポイント	3
HIV 関連のスティグマと差別にどう取り組むか：戦略と目標	5
スティグマと差別の解消に向けた世界のターゲット	6
あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別を解消するための グローバルパートナーシップ	8
現場から：世界エイズ戦略の 10-10-10 ターゲット達成に 向けたグローバルパートナーシップ 6 分野の成果	19
すべての分野で HIV 関連のスティグマと差別に取り組む 代表的なグローバルパートナーシップ参加国	28
REFERENCES	30

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団





キーポイント

HIV 関連のスティグマと差別は広く存在している。

HIV 関連のスティグマと差別は、様々なかたちで、HIV の予防、治療、ケアの継続を妨げ、人権とジェンダーの観点から、公衆衛生上の脅威としてのエイズ流行を2030年までに終結させるという目標に立ちはだかる大きな障壁となっている。

HIV 関連のあらゆるスティグマと差別をなくすことは、世界エイズ戦略 2021-2026 および HIV とエイズに関する 2021 年政治宣言、2030 年までの持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた基礎となる。

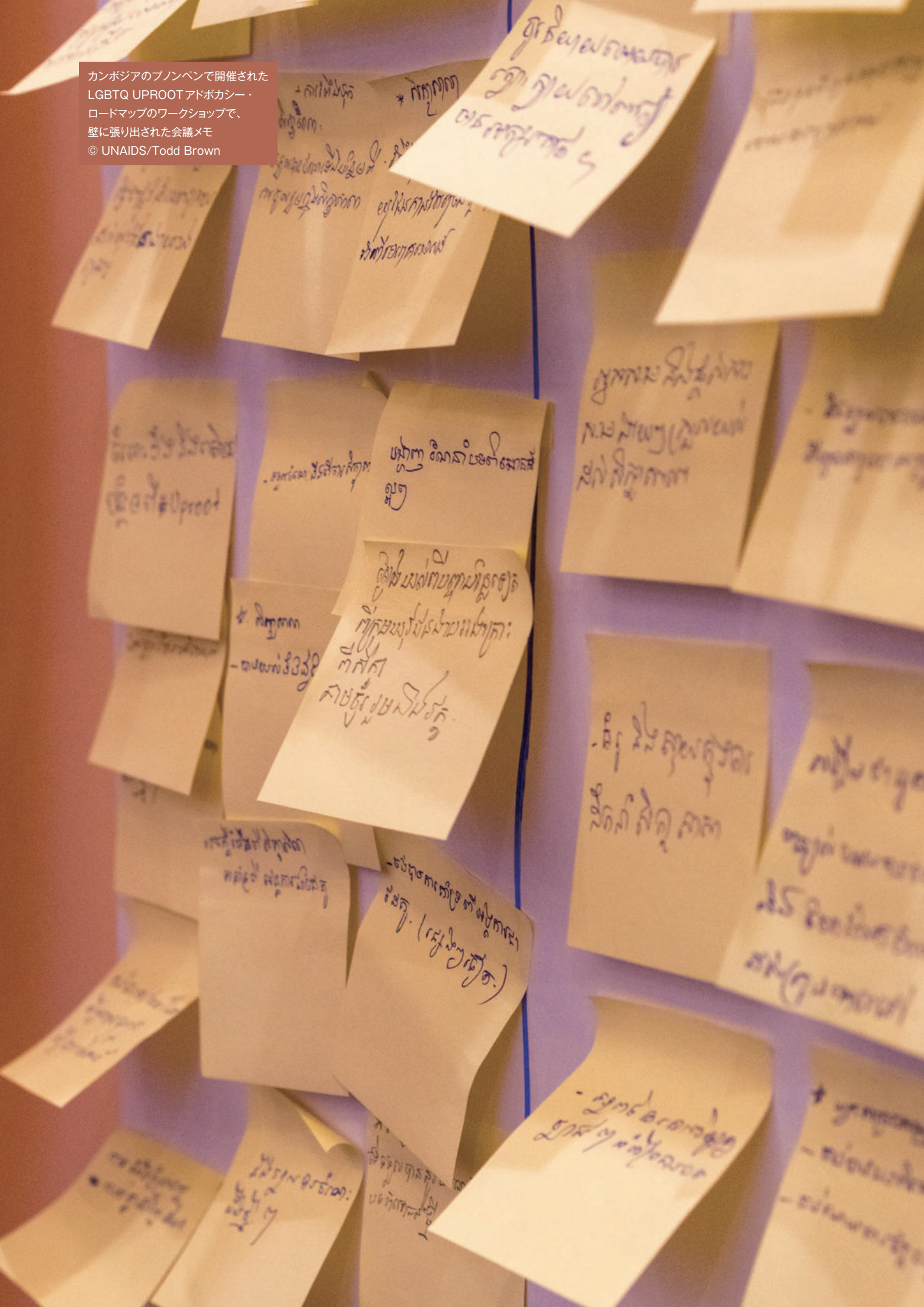
スティグマや差別は医療現場だけで起きるわけではない。教育や職場、司法、コミュニティ、緊急事態と人道支援の現場でも生じている。

世界エイズ戦略 2021-2026 は、不平等を解消し、スティグマや差別で不当な扱いを受け取り残されている人たちに手を差し伸べるため、10-10-10 ターゲットを設定している。

『あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別を解消するためのグローバルパートナーシップ』(グローバルパートナーシップ) はエイズ流行の拡大要因である不平等に対処し、コミュニティの復元力とエンパワーメントの強化に貢献している。その成果は、COVID-19 への対応や将来のパンデミックに備えるうえでも重要な役割を担う。

『あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別を解消するためのグローバルパートナーシップ』は、相互に関連するターゲットの達成と戦略遂行に向けてすべての国が行動するうえで重要な手段となっている。グローバルパートナーシップが目指すのは、各国政府と市民社会、二国間および多国間ドナー、学術分野、国連の総合的な力を活用することによって HIV 関連のスティグマと差別を解消し、HIV サービスへの重大な障壁を打ち破る行動を各国に促すことだ。

カンボジアのプノンペンで開催された
LGBTQ UPROOT アドボカシー・
ロードマップのワークショップで、
壁に張り出された会議メモ
© UNAIDS/Todd Brown





HIV 関連のスティグマと差別にどう取り組むか：

戦略と目標

HIVとエイズの世界적인流行が確認されてから40年以上（1980年代～2020年代の5つの年代）が経過した現在でもなお、HIV関連のスティグマと差別は根強く残っている。HIVとエイズの流行がもたらした壊滅的打撃の影響を抑えるために、世界のエイズ対策は過去10年、大きな成果をあげてきた。それでも、世界が目指してきた2020年ターゲットは達成できずに終わっている。スティグマが存在し、差別によって温存される不平等が解消されていないからだ。

パンデミック対策の様々な側面とともに、HIV関連のスティグマや差別への対応も、過去40年余り（5つの年代）の間に進化を遂げてはいる。それでもなお、HIV陽性者および感染の高いリスクに直面している人たちは、家庭やコミュニティ、職場、保健医療施設、教育機関、政策などあらゆる分野のあらゆるレベルで、スティグマと差別にさらされ、基本的人権も確保できずにいる。こうした経験が内面化されることで、メンタルヘルスの問題や社会的な孤立を生み出すこともある。

さらに、HIV関連のスティグマや差別はジェンダー、年齢、性的指向、性行動、人種、セックスワーク、薬物使用などの要因がからみあい、社会的な排除や犯罪化につながることで一段とひどくなる。とりわけキーポピュレーション^(注1)の人たちは、スティグマや差別、暴力のために、HIV感染の予防・治療・ケアのサービスを利用できずにいる。このため、HIV陽性者や感染の高いリスクに直面する人たち、大きな影響を受けている人たちの生活の質が大きく低下することになるのだ。

UNAIDSの年次報告書2022『In Danger（危機的状況）』⁽¹⁾は、新規HIV感染者数が減少から増加に転じた地域の状況をデータで明らかにしている。不平等や懲罰的な法律と政策、スティグマと差別によってリスクが拡大していることは否定できない。最新のエビデンスは、暴力やスティグマ、差別、懲罰的法律に対処することで、2025年までに世界全体で250万人の新規HIV感染と170万人のエイズ関連死亡が回避できることを示唆している。つまり、不平等をなくし人びとの命を救うには、各国がスティグマと差別に関する世界ターゲットの達成に向けて努力することが極めて重要になる。

(注1) ゲイ男性など男性とセックスをする男性、セックスワーカー、トランスジェンダーの人たち、注射薬物使用者、受刑者（およびその他の投獄されている人たち）、先住民、障害のある人たち、移民、難民、女性と少女（特に思春期の少女と若い女性）。

スティグマと差別の解消に向けた世界のターゲット

HIVに関連するあらゆるかたちのスティグマと差別をなくすことは、誰一人取り残さないという**持続可能な開発目標（SDGs）**の約束を果たし、2030年までのエイズ流行終結を含む目標達成に向けた鍵となっている（2、3）。

HIV関連のスティグマと差別をなくすことは、**世界エイズ戦略2021-2026**とそのソーシャルイネーブラー（課題解決の実現を支える社会的要因）に関する10-10-10ターゲット（4）達成に向けたあらゆる努力の中心となる。そのためには、2025年までに以下の数値を下回る必要がある。



10%

HIVに影響を受けているコミュニティを犯罪の対象とし、司法から遠ざける法律がある国を10%未満にする。



10%

ジェンダーに基づく不平等や暴力を経験するHIV陽性者およびHIVに影響を受けている人の割合を10%未満にする。



10%

懲罰的な法律や政策を導入し、司法へのアクセスを妨げている国を10%未満に減らす。

世界エイズ戦略はさらに以下のことも求めている。

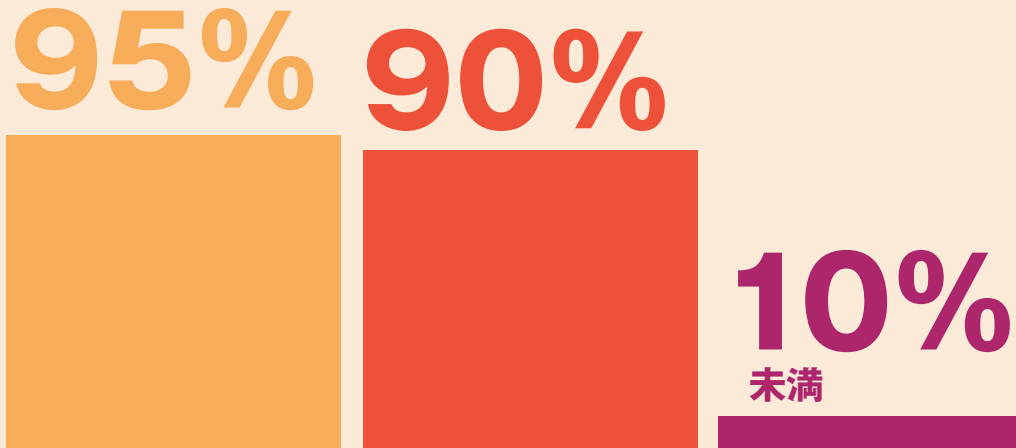


60%

これらのターゲットを達成するためのプログラムの少なくとも60%は、コミュニティ主導の組織によって提供できるようにする。

世界エイズ戦略 2025 の最重要ターゲット

HIV 陽性者および HIV 感染のリスクに直面しているコミュニティを中心に据える



- コンビネーション予防を利用する人の割合を95%以上に増やす
- HIV 陽性者 (PLHIV) の95%以上が自らの HIV 感染を知る
- 自らの感染を知った HIV 陽性者の95%以上が治療を開始する
- 治療を続けている HIV 陽性者の95%以上が体内のウイルス量を低く抑える
- 必要な人の95%以上が垂直感染 (母子感染) 予防のサービスを受けている
- 女性の95%以上が HIV および性と生殖に関する保健サービスを利用している
- HIV 陽性者および HIV 感染のリスクに直面している人たちの90%以上が、人を中心に据え、個々の事情に応じた統合的サービスを受けられる
- 懲罰的な法律や政策が残っている国の割合を10%未満に減らす
- スティグマと差別を経験する HIV 陽性者およびキーポピュレーションの人たちの割合を10%未満に減らす
- ジェンダーに基づく不平等と暴力を経験する女性・女児、HIV 陽性者、およびキーポピュレーションの人たちの割合を10%未満に減らす

国連加盟国は、HIV/ エイズに関する政治宣言 2021 (5) で UNAIDS の世界エイズ戦略に賛同し、社会的、経済的、人種的な不平等、およびジェンダーによる不平等に終止符を打つため、緊急かつ変革的な行動を取ることを約束した。また、エイズ流行の永続につながる抑圧的、差別的な法律や政策とその執行、スティグマおよび HIV 感染を含め相互に関連する様々な形態の差別、人権侵害に対しても緊急かつ変革的な行動で取り組むことを約束している。

政治宣言が示す差別解消と公平の原則は、『女性差別撤廃条約 (CEDAW)』『市民的及び政治的権利に関する国際規約』『経済的、社会的、文化的権利に関する国際規約』『あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約』など加盟国による他の主要な国際的取り決めにおいても基盤となるものだ。



政治の関与が必要なことについては、世界的な共通認識がすでに成立しています。いま必要なのは、その共通認識を具体的な行動に移すために力を合わせるこたなのです。

あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別を解消するための グローバルパートナーシップ



あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別を解消するためのグローバルパートナーシップは、国連政治宣言と世界エイズ戦略のターゲット達成に向け、すべての国が行動をとるための重要な手段となる。パートナーシップを生かすことで、対策と資金確保のための調整を強化できる。確認された知識とエビデンスを踏まえたかたちで、技術支援の提供が可能になる。そして、説明責任のメカニズムとコミュニティのリーダーシップを高めることにもつながる。

始まりは

UNAIDS のプログラム調整理事会 (PCB) は 2017 年 12 月の第 41 回理事会で、HIV 関連のさまざまなスティグマと差別、犯罪化に対し、一致して対応を強化することが緊急に必要なことを強調した。必要不可欠なサービスの利用を制限し、HIV に対する脆弱性を増大させ、エイズの流行の拡大に拍車をかける要因になっているからだ。PCB の NGO 代表団からの呼びかけを受け、2018 年 12 月 10 日の国際人権デーには、『あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別を解消するための世界パートナーシップ (グローバルパートナーシップ)』が発足した。

グローバルパートナーシップ主な**目的**は以下の 3 点である。

- HIV 関連のスティグマと差別をなくすために、世界レベル、地域レベル、国家レベルで約束した政治的公約の実現と人権の確保を国レベルで実行できるよう支援を行う。
- 関係者間のパートナーシップを確立、強化、活性化することで、あらゆるかたちの HIV 関連スティグマ・差別の解消に向けたプログラムの実施と規模拡大を進める。
- HIV 関連の偏見と差別の撤廃に向けた政策とプログラムを示し、その進捗状況を把握し、説明責任を果たすことを可能にするため、エビデンスに基づくデータを継続的に集め、提供する。

グローバルパートナーシップは以下の**6分野**におけるスティグマや差別的な行為、政策、法律をなくすことを目指している。 ■ 保健医療 ■ 働く場 (職場) ■ 教育 ■ 司法制度 ■ コミュニティ ■ 緊急事態

グローバルパートナーシップの仕組：

**グローバルパートナーシップ
における政治指導層**

- UNAIDS 事務局長
- UN Women 事務局長
- UNDP 総裁
- GNP+ 事務局長
- Global Fund 事務局長

**CO-CONVENORS
GROUP
(共同委員会グループ)**

GNP+, PCB NGO
代表団, UNAIDS,
UNDP, UN Women,
Global Fund, CDC

共同委員会グループの事務局は、パートナーシップ、アドボカシー、ガイダンス策定について助言し、各国が技術的支援を確保できるよう技術的なレベルで政治指導部を支える。

技術作業部会

参加国に向けて
技術支援と戦略的ガイダンスを行う。
情報の共有と共同作業、資金確保を助ける。

- 保健部門：WHO & Asia Catalyst
- 職場：ILO & AMMAR (Asociación de Mujeres Meretrices de Argentina)
- 教育部門：UNESCO & Athena Network
- 人道支援部門：WFP and ICASO (International Council Of Aids Service Organizations)
- 司法制度：UNDP and HIV Justice Network
- コミュニティ部門：UN Women and ICWEA (International Community of Women living with HIV Eastern Africa)

このパートナーシップは現在、国連女性機関（UN Women）、国連開発計画（UNDP）、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）、世界HIV陽性者ネットワーク（GNP+）、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、PCB（UNAIDSプログラム調整理事会）NGO代表団、米疾病予防管理センター（CDC）が共同運営している。

世界レベルにおけるグローバルパートナーシップの活動は、国連機関および市民社会メンバーで構成する技術作業部会から助言を受けている。技術作業部会は、グローバルパートナーシップが定める6分野を中心に組織し、分野ごとに共同リーダーが置かれている。また、各地域または各国の技術支援に関しては、それぞれのニーズや優先事項、現実に合わせて支援が提供できるよう、地域別および国別のコーディネーターが置かれている。現場におけるこうしたユニークな仕組みは、専門知識を実践するコミュニティを形成し、グローバルパートナーシップへの理解を促すとともに、実施を加速する触媒としての役割を果たしてきたことが明らかにされている。

参加の手順と加盟国が果たすべきこと

グローバルパートナーシップ参加国は2023年5月現在、35カ国^(注2)。各国政府は参加の際に以下の約束をしている。

- 市民社会組織、HIV陽性者やHIV感染のリスクに直面している人たち、HIVに大きな影響を受けている人たちのコミュニティ、国連機関、学術関係者、民間部門、ドナー、その他利害関係者と協力し、政策とプログラムの実施ギャップに対応する。また、エビデンスに配慮して対策の策定と実施に取り組み、HIV関連のスティグマと差別解消に向けた進捗状況を追跡し、報告する。
- HIV関連のスティグマと差別について、国内の現状を評価するか、すでに評価している場合はその評価に基づき、サービスへの障壁打破に向けて人権とジェンダーに基づく政策とプログラムを策定し、実施する。
- 6分野のすべてに対し5年間にわたって、HIV関連のスティグマと差別を解消するための行動をとる。初年度は3分野に取り組む。

ラオスのヴァンヴィエンでHIV陽性者およびキーポピュレーションの代表を対象に行われたHIV関連のスティグマと差別に関するキャパシティビルディング（能力構築）ワークショップ © UNAIDS 2023



(注2) グローバルパートナーシップ参加国:アンゴラ、アルゼンチン、ボツワナ、ブラジル、カンボジア、中央アフリカ共和国、コスタリカ、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ドミニカ共和国、エクアドル、ガンビア、グアテマラ、ギニア、ガイアナ、イラン、ジャマイカ、カザフスタン、ケニア、キルギス、ラオス、レソト、リベリア、ルクセンブルク、モルドバ、モザンビーク、ネパール、ババニューギニア、フィリピン、セネガル、南アフリカ、タジキスタン、タイ、ウガンダ、ウクライナ。このうち、グローバルファンドによる障壁打破国は次の通り:ボツワナ、コンゴ民主共和国、中央アフリカ共和国、コートジボワール、ジャマイカ、ケニア、キルギス、モザンビーク、ネパール、フィリピン、セネガル、南アフリカ、タイ、ウガンダ、ウクライナ。

- HIV関連のスティグマと差別をなくす対策の実施とモニタリング、報告に必要な資金を確保する。
- 既存の指標および推奨されている指標を活用して進捗状況のモニタリングを行い、毎年、報告する。世界エイズモニタリング、グローバルファンドの資金助成最新情報、米大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）による各国運営計画の実施報告、UNAIDSの予算・実績・説明責任の統一枠組み（UBRAF）に基づく報告書などがその指標となる。

グローバルパートナーシップ参加国に求められる要件については、各国政府向けの詳細かつ段階的な実施に関する手引きをUNAIDSのウェブサイトで見ることができる。その中にはグローバルパートナーシップがまとめたガイダンス『HIV関連のスティグマと差別をなくすためのエビデンス』なども含まれている。

グローバルパートナーシップの運営法

戦略的協力を最大限に活用する

戦略的協力がグローバルパートナーシップの大きな力となっている。世界中で様々な利害関係者が力を合わせれば、強みを生かす領域が広がり、あらゆるかたちのスティグマと差別に有効に対処する専門的知識と能力を高めることができるからだ。世界全体、および域内や国内におけるパートナー間の協力の機会と資金を活用し、スティグマと差別をなくすための包括的プログラムの規模拡大と加速に向けてグローバルパートナーシップが各国を支援することも可能になる。

世界全体や地域、国家レベルの主なパートナーとしては、Beyond Stigma、Deutsche Aidshilfe、DLA Piper、欧州連合、国際エイズ学会（IAS）、Love Alliance、PEPFAR、米国疾病予防管理センター（CDC）、Women4GlobalFund などがある。さらに、グローバルパートナーシップは重要な協力の枠組みとしてthe Focal Country Collaborationにも参加している。^(注3)

(注3) グローバルパートナーシップの目標推進に向けた協力強化をはかるためにPEPFAR、グローバルファンド、米国立衛生研究所、UNAIDS、CDCは、コミュニティや各国の政府、国内パートナー組織との調整、協力、計画策定に関する連携をはかり、スティグマと差別を目に見えるかたちで減らすことに取り組んでいる。HIV陽性者に対するスティグマインデックス2.0の普及に向けた調整を強化し、その結果、および他の利用可能なエビデンスの活用を通してスティグマと差別の軽減策に確実に資金を振り向けるようになっている。The Focal Countries Collaboration（重点国連携、FCC）は、そうした動きの中で構築され、国別の年次計画ガイダンスで明記した期待値に沿うかたちで、グローバルパートナーシップ、グローバルファンド（GF）の障壁打破イニシアチブ、PEPFARの国別および中央の活動と投資などと緊密な連携を保ちつつ運営されている。この結果、重点6カ国（ジャマイカ、コートジボワール、ガーナ、モザンビーク、南アフリカ、タイ）が選択され、パートナー間の調整に向けて各組織による個別の活動を尊重しつつ、協力して格差に対応することで、最終的にこの分野においてプラスの変化をもたらすことを目指している。

障害を持つHIV陽性の女性
© UNAIDS 2022



スティグマと差別に対するマルチステークホルダー・メカニズム

グローバルパートナーシップは集まることで生まれる力を活かし、16のスティグマと差別に関するマルチステークホルダー・メカニズム^(注4) および19の国家行動計画^(注5)の確立と強化を支援している。各国の政府やドナー、パートナー組織が調整をはかりつつ、コミュニティを重視し、エビデンスに基づく費用対効果の高い対応を効率化し、規模拡大することで、スティグマや差別の解消に大きな効果を上げてきた。GNP+のリーダーシップのもとでコミュニティの権利を擁護する主張を展開できるよう能力強化をはかっている。また、資金申請、および対策の実施、モニタリング、評価において、多数の関係者が集まる枠組みや計画に意味のあるかたちで参加し、補助金やプログラムがHIV陽性者とHIVに影響を受けている人たちのニーズや優先事項に見合うかたちで最大限の効果をあげられるようにしている。その結果、19カ国では、スティグマと差別の解消をとくに必要とする場面での対応が進んでいる^(注6)。また、18カ国では法改正を進めてキーポピュレーションの司法へのアクセスを広げ^(注7)、優先7カ国では非犯罪化の促進に向けて対象を絞った法的・政治的擁護キャンペーン(#NotACriminalキャンペーン)を展開してきた^(注8)。

(注4) グローバルファンドの障壁打破技術作業グループ、国別調整メカニズム、または国内エイズ委員会が含まれる。対象国は、アンゴラ、中央アフリカ共和国、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ジャマイカ、カザフスタン、キルギス、リベリア、モルドバ、モザンビーク、パプアニューギニア、セネガル、南アフリカ、タイ、ウクライナ、ウガンダ。

(注5) 中央アフリカ共和国、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ガンビア、ギニア、イラン、ジャマイカ、リベリア、ネパール、セネガル、南アフリカ、タジキスタン、タイ、ウガンダ。行動計画策定中またはほぼ完成している国は、アルゼンチン、モザンビーク、カザフスタン、キルギス、ウクライナ。

(注6) 中央アフリカ共和国、コートジボワール、コンゴ民主共和国、イラン、ジャマイカ、カザフスタン、キルギス、ギニア、ラオス、リベリア、モルドバ、ネパール、パプアニューギニア、セネガル、南アフリカ、タイ、ガンビア、ウガンダ、ウクライナ

(注7) アンゴラ、アルゼンチン、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、ガンビア、ギニア、ジャマイカ、カザフスタン、キルギス、ラオス、リベリア、モルドバ、ネパール、セネガル、南アフリカ、タイ、ウガンダ、ウクライナ。

(注8) コートジボワール、ガーナ、ジャマイカ、カザフスタン、モザンビーク、ナイジェリア、南アフリカ、タイ、ウガンダ。



16

スティグマと差別に関する
マルチステークホルダー・
メカニズム



19

国家行動計画



19カ国

スティグマと差別の解消がとくに
必要な場面における対応を加速



18カ国

法改正を進めて
キーポピュレーションの
司法へのアクセスを拡大



優先7カ国

非犯罪化の促進に向けて対象を絞った
法的・政治的擁護キャンペーン
(#NotACriminal キャンペーン) を展開

コミュニティの能力開発



グローバルパートナーシップはここ数年、以下の活動に力を入れてきた。
(i) 能力開発 (ii) 法改正に向けた活動と技術的支援 (iii) キーポピュレーションの人たちへの暴力その他の危害回避に向けた危機的状況への介入 (iv) スティグマインデックスの研究 (v) ジェンダーに関するHIV対策の評価 (vi) 各国の国内におけるキーポピュレーションへの対応を強化する地方レベルのプログラムの調整 (vii) ソーシャルイネーブラー(社会的課題解決要因)への対応強化に向けたコミュニティのリーダーシップを高めるためのプログラム連携の拡充。

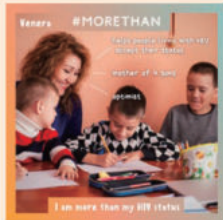
市民社会およびコミュニティ主導の組織(女性の権利擁護団体、HIV陽性者ネットワーク、若者の組織、キーポピュレーションの組織など)が、グローバルパートナーシップのガバナンスの中核となっている。各国の国内における協議や権利擁護キャンペーン、能力開発、プログラム実施にこうした組織が**積極的に関与し、リーダーシップを発揮**することで、HIV関連のスティグマや差別と闘うために必要な社会的保護やコミュニティ支援、そして安全な空間の確保がなされてきた。

グローバルパートナーシップの支援はコミュニティの積極的な関与を促し、コミュニティが自らの権利を知り、内なるスティグマの克服に向けた能力開発の機会を提供する。コミュニティはまた、主要な意思決定者に働きかけ、政府による戦略的アドボカシー・キャンペーンの展開を促すこともできる。

各地域および各国におけるグローバルパートナーシップのコーディネーターは、コミュニティとその支援者が人権の保護と促進に向けて国内外の団体と有意義な連携を保って政策と法律の改正を求め、スティグマと差別の解消に努めることを助ける。

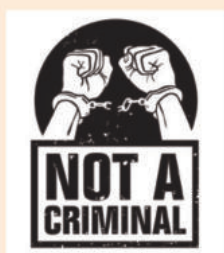
アドボカシーとコミュニケーションは、グローバルパートナーシップがHIV関連のスティグマと差別に対する闘いを続け、政策と法律の改正を進めるうえで、活動のすべてにまたがる重要な要素となる。実際にグローバルパートナーシップは各国政府やコミュニティ、ドナーの支援を獲得するため、GNP+が主導する #MoreThan advocacy キャンペーンを支援し、活用もしてきた。このキャンペーンはオンラインのソーシャルメディアを通して、女性や若者、様々なキーポピュレーション、宗教指導者、インフルエンサーなど11万9000人を超える人たちに届いており、HIVに感染していることでHIV陽性者にレッテルを張るような態度をとるべきではないとの認識を深めている。さらにグローバルパートナーシップのコミュニティは2022年、HIV感染に関する非犯罪化の課題を追求するため、GNP+が主導する#NotACriminalキャンペーンを含む法的、政治的アドボカシーのキャンペーンを展開する優先7カ国を決定した。

地球規模のアドボカシー・キャンペーン



2021年の差別ゼロデー（3月1日）には、グローバルパートナーシップの **#More Than campaign** がスタートしている。アドボカシーと教育のツールとして、また国やドナー、パートナーからの支援を集める政治的手段として展開されてきた。パートナーシップを促進し、コミュニティが自らの権利を認識するためのキャンペーンである。コミュニティがコミュニティのために、コミュニティによって企画、運営し、様々なHIV陽性者の多様なあり方を称えることで、HIV関連のスティグマや差別に対応している。そして、誰もが **#MoreThan their HIV status** であること、人間の尊厳と個人の複雑さを否定するレッテルを拒否し、それを超える存在（=More Than their HIV status）であることを強調している。

このキャンペーンは、パートナーおよび主要な国際デーを活用し、それぞれの人の事情に合わせた対策と各国のベストプラクティス事例を紹介している。HIV関連のスティグマと差別は相互に影響し合っていることに焦点を当てつつ、キーポピュレーションに属する人たちが直面する課題に対応しているのだ。コミュニケーションについてはとりわけ、差別的な法律の改革に向けた現場での戦略的アドボカシーが確実にできるよう地域レベルおよび各国レベルの事情にあわせて調整を行っている^(注9)。



#NotACriminal キャンペーンは、#MoreThan キャンペーンを継続するものであり、HIV陽性者やHIVの影響を受けている人たちを犯罪者とみなす有害な法律の撤廃に焦点を当てている。キャンペーンは世界HIV陽性者ネットワーク、およびキーポピュレーションのネットワークが協力し、国際エイズ会議(AIDS2022)でスタートした^(注10)。

グローバルパートナーシップ参加国への技術的支援

グローバルパートナーシップには、世界全体と地域、各国国内におけるコーディネーターのチームがあり、利害関係者を集めた会合、プログラムの設計と実施に向けた各国の対応への日常的支援、HIV関連のスティグマと差別の解消に向けた利害関係者の説明責任の確保などを通してスティグマと差別に対する域内および各国間の協調を実践的に支援している。

また、効果的かつ革新的なスティグマと差別の削減プログラムの設計と情報提供を進めるため、グローバルファンド障壁打破イニシアチブのベースラインおよび中間評価とその進捗状況^(注11)、HIV陽性者に対するスティグマインデックス、UNDPの法的環境評価、UNAIDSのジェンダー評価など、すでにあるエビデンスと評価の結果を活用している。

さらに、各国への技術支援の一環として、いくつかのガイダンス文書とツールの開発も行ってきた。こうした資料の作成は、HIV関連のスティグマと差別に対処するため、エビデンスに基づいたプログラムの特定、計画、実施、モニタリング、評価について各国を支援し、6分野における影響力を高め、持続可能性をもたらすことが主な目的となっている。

(注9) キャンペーンの一部は動画で紹介されている。 <https://twitter.com/gnpplus/status/1469334767212638214>

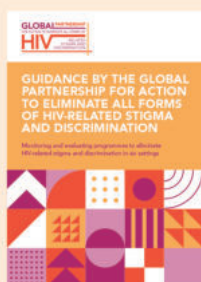
(注10) GNP+、ICW (国際HIV陽性女性コミュニティ)、Y+Global、トランス平等のためのグローバル・アクション、国際薬物使用者ネットワーク、MPact、セックスワーク・プロジェクト世界ネットワーク、HIV司法ネットワーク、HIV Policy Labも技術面で関与している。詳細はこちら。 <https://notacriminal.org/>

(注11) 障壁打破イニシアチブの一環として、グローバルファンドは技術面および財政面から24カ国を集中的に支援している。ニーズと機会、能力、パートナーシップの規模拡大に向けた現実的な可能性を追求するため、こうした支援は、HIV、結核、マラリア対策へのアクセスを妨げ、人権を侵害する障壁の克服に大きな成果をもたらしている。

行動に向けたガイダンスとツール



「HIV関連のスティグマと差別の解消に向けたエビデンス — 6分野におけるHIV関連のスティグマと差別の解消に向けて、各国が効果的なプログラムを実施するためのガイダンス」：グローバルパートナーシップが示す6分野の状況を通し、HIV関連のスティグマと差別を減らすには何が有効なのか。最新のエビデンスと事例集(6)。



「あらゆるかたちのHIV関連のスティグマ・差別を解消するためのグローバルパートナーシップによるガイダンス。6分野におけるHIV関連のスティグマ・差別を解消するためのプログラムに対するモニタリングと評価」：政府機関、非政府組織、コミュニティ団体におけるプログラムの計画者、実施者、管理者を支援するため、モニタリングと評価のエビデンスを補完するガイダンス。プログラムの成果について理解し、プログラムの改善とスケールアップに関する情報を得ることができる(7)。

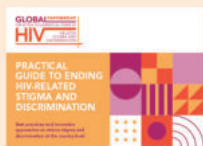


「誰が測るのか？何を測るのか？そして誰が何を測るのか？ HIV関連のあらゆるかたちのスティグマと差別を解消するためのグローバルパートナーシップによるスティグマ・差別軽減のモニタリングに関するアドボケート向けガイド」：6分野でHIV関連スティグマの軽減プログラムをモニタリングし、その結果をアドボカシー活動の支援に活用するための、ユーザーフレンドリーでジェンダー平等への変革を促すガイド(8)。

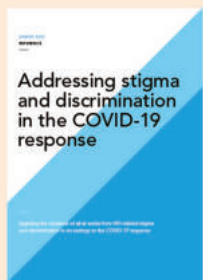


「グローバルパートナーシップは、障壁を打破し、スティグマや差別と闘うための協力の枠組みを大きく変えるものです。コートジボワールでは、教育制度や緊急事態のもとで医療従事者や法執行機関による不当な扱いからHIV陽性者とキーポピュレーションの人たちを守るHIV法の普及に取り組んでいます」

コートジボワールHIV陽性者団体ネットワーク事務局長、コーディネーター（2023年3月29日）



「HIV関連のスティグマと差別解消に向けた実践ガイド。スティグマと差別の軽減に向けた各国の成果事例と革新的アプローチ」: HIV関連のスティグマや差別を軽減するための成功事例を紹介し、それぞれの国の状況に応じてその成果を適用するための情報を提供 (9)。



「新型コロナウイルス感染症に対応するためのスティグマと差別への対処：6分野におけるHIV関連のスティグマと差別への対応から得られたエビデンスに基づき、その有効性に関する教訓を新型コロナウイルス感染症対策に生かす」: HIV対策の教訓を生かし、新型コロナウイルス感染症に関連したスティグマや差別の軽減に向けてエビデンスを踏まえた勧告を各国に提案 (10)。

UNAIDS 連帯基金は
ガーナの女性セックスワーカーを支援
© UNAIDS





現場から：

世界エイズ戦略の 10-10-10 ターゲット達成に向けた グローバルパートナーシップ6分野の成果



保健医療分野

医療現場におけるスティグマと差別は世界のどこでも見られる。人びとの生活の質を低下させ、価値観を押し付けるような態度やサービスの拒否、個人情報を守られないことなどを恐れて医療サービスが利用できなくなり、健康に対する権利の行使を妨げている（11、12）。それがHIVの予防と検査、治療、そしてウイルス量抑制の維持に至る一連のケアに負の影響を及ぼすことになる。



スポットライト：ウクライナ

ウクライナでは、グローバルファンド、USAID（米国国際開発庁）、UNAIDSの支援を受け、スティグマや差別のないサービスの提供など、プライマリ・ヘルスケアの医師の能力を高めるHIVオンライン学習プラットフォームが利用できるようになった。医療提供者向け研修でも、臨床現場でのスティグマと差別の克服に向けた技術と知識を提供している。



「グローバルパートナーシップは何よりもまず、HIVに関連するあらゆるかたちのスティグマと差別の解消に向け、すべての利害関係者に対して行動を呼びかけています。HIV・結核の予防と治療サービスへのアクセス確保に向けた包括的な人権障壁打破戦略2019-2030を実施するためのテーマ別サブグループが作られ、2021-2023年の行動計画策定に積極的に取り組みました」

グローバルパートナーシップ実行支援ウクライナ調整官（2023年3月29日）



スポットライト：中央アフリカ共和国

中央アフリカ共和国はグローバルパートナーシップの最初の参加国であり、医療分野を優先対応事項の1つとしている。国内調整メカニズムとしてゼロ差別全国プラットフォームが30人以上のメンバーで再開され、グローバルパートナーシップと国との共同活動の監督と実行支援にあたっている。



中央アフリカ共和国では2020年の差別ゼロデー（3月1日）に、医師、看護師、助産師の専門家組織と患者団体が、ケアの質と患者の権利に関する国家憲章に署名した。憲章には、HIV感染の有無や性的指向に基づくものを含め、医療サービス提供の現場におけるあらゆるスティグマと差別を禁じる条項が含まれている。憲章は保健所などにも広く配布され、医療スタッフや保健医療提供者に対し、理解を深めるための専門研修が定期的に行われた。人道主義と医療倫理、人としての尊厳の尊重を重視し、クライアントと医療提供者の関係を改善するための（13）。



「中央アフリカ共和国における患者憲章の普及活動は効果をあげています。憲章制定以来、この病院は大きく変わりました。看護スタッフの患者に対する接し方を見直し、誰もがそのことを話し合っているのです」

中央アフリカ共和国バンギ国立大学病院センターでHIV陽性者向けの「デイホスピタル」サービスを受ける患者たち（2023年5月31日）



コミュニティ分野

コミュニティ内部や家族・世帯の中で、HIV陽性者がスティグマや差別に直面することも少なくない。礼拝の場や他のコミュニティ施設から締め出されることもあるし、家族や同僚からの排除を経験することもある。そうした経験が内面化され、自らを非難し、恥と感ずることや自尊心が低下することで、さらにコミュニティや家族から引き離されてしまうおそれもある。

また、ジェンダーの不平等と有害なジェンダー規範がスティグマと差別を永続させ、女性・少女、様々なジェンダーの人たちがHIV感染予防と感染による影響を軽減するために必要な能力を妨げている（14）。ジェンダーに基づく暴力や親密なパートナーによる暴力、スティグマを強化する社会的・文化的規範は、女性・少女、多様なジェンダーの人たちが利用できるケアにも悪影響を与えている。



スポットライト：様々な分野でセネガル、ウガンダ、ジャマイカの女性と少女が直面するスティグマと差別の軽減策

グローバルパートナーシップは指導者間の協力、および技術専門分野のパートナーや戦略的研究から得られる専門知識を生かして、様々な立場にあるHIV陽性の女性と少女の権利とニーズに直に対応し、あらゆる分野での対応策がジェンダーの観点から保証されるよう取り組んでいる。

ウガンダ国内の56の地区では、地元指導者や意思決定者を支援するため、HIV陽性女性国際コミュニティ東アフリカ（ICWEA）によるコミュニティ主導のスコアカードを試験的に導入している。女性と少女に対するHIV関連のスティグマと差別の解消に向けて、権利侵害をモニタリングし、介入策を実施するためだ。

セネガルでは、HIV陽性者全国ネットワーク（RNP+）がグローバルパートナーシップの支援を受けて、女性と少女に焦点を当てたスティグマ対策の会合を開催し、女性弁護士協会や女性の権利擁護団体とともに、コミュニティ主導で得られたモニタリングのデータを活用して権利擁護戦略を開発している。この戦略は、HIV陽性の女性と少女、およびHIVに大きな影響を受けている女性と少女に対する差別を軽減するため、共通の枠組みとツールを地方レベルのRNP+加盟団体に提供するものだ。

さらに、ジャマイカとウガンダの女性権利団体は進行中の南南協力により、あらゆる立場の女性および少女の権利とニーズが支持され完全に満たされるよう、情報や優先事項、教訓、対処すべきギャップに関する情報を交換するため、グローバルパートナーシップの活動を通じてWomen4GlobalFund（W4GF）から支援を受けている。W4GFは市民社会、コミュニティ、技術パートナー、実務者を集めた全国レベルのウェビナーを開催した。ジャマイカとウガンダでのグローバルパートナーシップの展開方法に影響を与えるにはどこから始めたらよいのかといった理解を構築するためだ。こうした議論を通して、サービスへのアクセスを制限することが多いスティグマと差別のジェンダー的側面を検討することができ、グローバルパートナーシップの介入はより強化されることとなった。





司法分野

懲罰的かつ差別的な法律や政策がスティグマと差別を温存させている。HIV陽性者や HIV感染の恐れがある人々に対する暴力が蔓延し、常態化して、法的救済も困難にする環境を生み出しているのだ(15)。HIVの非開示、曝露、感染に関する法律と政策(16)や渡航制限：検査の義務化(妊婦を含む)；法に基づく親の同意の義務付け、合意に基づく同性間の性行為の犯罪化(17)、セックスワーク、薬物使用の犯罪化などが含まれる。HIV陽性者やキーポピュレーションの人々が犯罪者とされることにより、サービスの利用は減り、HIV感染率が増加する。このことは一貫してエビデンスで示されている。



スポットライト：アルゼンチン

アルゼンチンでは、グローバルパートナーシップの技術支援を受け、HIV・ウイルス性肝炎その他の性感染症(STI)および結核の包括的対応に関する法律を議会が可決し、2022年7月15日に大統領も承認した(18)注12。この新法は人権重視の観点から、HIV・ウイルス性肝炎その他の性感染症(STI)および結核を抱えて生きる人たちが、いかなる種類の差別も受けることなく包括的な支援、および尊厳を保って治療とケアを受ける権利を保障している。この法律はジェンダーの平等に先進的に取り組んでいる。また、女性およびHIV・結核・C型肝炎・性感染症を抱え、妊娠能力のあるすべての人、妊娠中または最近出産した人とその子供たちに対し、差別を受けることなく尊厳を保って医療を受ける権利をはっきりと強調している。



グローバルパートナーシップは2022年10月、56の市民社会組織による全国協議を手助けし、法律そのものの承認だけでなく、法施行を可能にするための条項の規制についても基本的な役割を果たすようになった。

(注12) このプロジェクトは上院の保健・人間開発委員会から肯定的な意見をj得ている



スポットライト：アンゴラ

グローバルパートナーシップは、アンゴラの国内 HIV 法に同意年齢に関する新たな規定案を提供するために、法律と政策の見直しへの技術的支援を行った。人権担当長官の支持を受けたこの規定案による法改正では、14 歳以上および 14 歳未満でも十分に成熟した青少年なら、親の同意なしに HIV 検査サービスを受けられるようになった。



こうした支援的な政策により、性と生殖に関する健康と権利について、若者が十分な情報を得て自ら決定を下すために必要な情報や医療支援へのアクセスが拡大することになる。このことは、結果として、若者のセクシュアリティに関するスティグマを軽減させている。キーポピュレーションの若者の間ではとくに、こうしたスティグマが性と生殖に関する健康と権利に関するサービスの利用を妨げていることがしばしばあるからだ。



スポットライト：中央アフリカ共和国

2006年に制定されていた HIV 陽性者の権利と義務に関する法律が、法務大臣と緊密な連携のもとで、HIV 陽性者の社会的保護に焦点を当てた法律に改正された。改正法は、HIV 陽性者およびキーポピュレーションの人たちの人権保護、HIV 感染の非犯罪化、HIV 検査同意年齢の引き下げ、若者の HIV サービスへのアクセス拡大に重点が置かれている。さらに、性暴力の被害を受けた女性の保護とケア、性と生殖に関する健康と権利に関する情報へのアクセス、学校や刑務所、職場における HIV 教育と訓練の機会確保も盛り込まれた。新法は 2022 年 10 月に施行された (19)。





働く場

働く場（職場）におけるスティグマや差別は依然として大きい。多数の国でHIV陽性者の失業率は全国平均より高く、軍隊や法執行機関、刑務所など特定の職場で雇用対象からHIV陽性者を除外している国もある。HIV検査を就労の条件として義務付けることやHIV感染に関する守秘義務の欠如も依然、HIV陽性者の雇用を妨げる大きな障壁となっている。こうした障壁のために就労の機会が失われれば、HIV陽性者やHIVに影響を受けているコミュニティの社会的立場はますます弱まっていく（20、21）。

一方で、職場は成人に対しHIV関連の知識やサービスを提供する良い機会にもなる。職場のプログラムは弱い立場にある労働者とその家族、コミュニティのメンバーにHIV検査を提供することに役立ってきた。逆にHIV陽性者を敵視するような雰囲気が職場にあると、そうした道も閉ざされてしまうことになる。



スポットライト：タイ

タイ労働省はグローバルパートナーシップの支援を活用し、HIV感染の有無に基づく差別を禁じる企業の社会的責任（CSR）基準を成立させた。またHIV関連の暴力と差別事例の報告を全国から受けるコミュニティ主導の危機対応システムも確立している。



2020年の世界エイズデー（12月1日）には、グローバルパートナーシップの支援を受けたタイHIV+若者ネットワークが、職場のスティグマや差別に取り組む全国キャンペーンを開始している。求職者および従業員に対するHIV検査義務化の動きを監視するキャンペーンで、推定15万人が対象となっている。

最終的に民間部門の協力を得て、差別のない職場プロジェクトの開発と規模拡大を果たした。強制的なHIV検査は行わず、特にHIV陽性の若者にとって差別のない職場の実現に重点を置いたものだ。民間部門の危機対応システムとともに、プロジェクトの一環として、国内最大の労使ネットワークの間でもアドボカシーのパッケージが採用されている。



教育分野

教育の場におけるHIV陽性の子供や若者に対する差別は、成績の低下や不登校につながる可能性があり、同時に排除や疎外の対象にされる恐れもある(22)。また、HIV陽性の教師も教育の場でスティグマや差別の対象になっている(23)。

教育現場における暴力と差別はまた、学業の継続、自己認識に重大な影響を与え、内なるスティグマを生み出すことで、HIVに対する脆弱性を悪化させるおそれもある。思春期の少女やジェンダー規範に当てはまらない若者は特に暴力を受けがちで、社会的、文化的な規範のために学校に通う機会を奪われるおそれが高くなる。

包括的な性教育が受けにくい状態にあることも、HIV関連のスティグマと差別を温存させる要因になっている。包括的で質の高い性教育は、HIV感染に関する正確な知識を若い人たちに提供し、ジェンダーの平等、およびHIV陽性者、キーポピュレーションの人たちに - 性と生殖に関する健康と権利(SRHR)を含む - 平等の権利を保障することの重要性を強調することになる(24)。注13



スポットライト：ウガンダ

ウガンダがグローバルパートナーシップに参加したのは2019年のことで、教育を優先分野の1つとしている。加盟以来、音楽やダンス、メディアの持つ力を活用し、若いHIV陽性者のサービス利用を妨げているスティグマや差別と闘ってきた。



コミュニティベースの組織『Joint Adherent Brothers and Sisters Against AIDS (JABASA)』が主導し、UNAIDSウガンダの協力のもとで、TVチャンネルを開設して若い人たちにHIVの予防、治療、服薬の継続の重要性を伝えるとともに、「positive living」を称えている。このTVチャンネルは新たな寄付を集めることにも成功している。

ミュージックビデオ注14とテレビ・ラジオ番組を通じて、JABASAは、HIV治療リテラシーの向上とメンタルヘルスの改善に取り組んでいる。また、ウガンダの人たちがHIVサービスへのアクセスを確保し、継続してサービスを受けるための力になっている。プロジェクトを率いているモーゼス・スーパーチャージャーは、JABASAの共同創設者兼チームリーダーであり、モーゼス自身もHIV陽性者であることを明らかにしてHIV陽性の15-24歳の若者による音楽・演劇グループ「スティグマレス・バンド」を率い前向きに活動している。

(注13) 詳しくはUNESCO (2021) Positive Learning: How the education sector can meet the needs of learners living with HIV. <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf00000380025>

(注14) Music video: <https://www.youtube.com/watch?v=VQmWVxwHiFo>



スポットライト：カザフスタン

カザフスタンでは、包括的性教育の内容を充実させ、性と生殖に関する健康と権利、ジェンダーに基づく暴力、HIVと性感染症などをカバーした複数のオンライン研修プログラムを提供している。



緊急事態のもとで

戦争、気候変動、食糧不安、劣悪な統治などの課題が、HIVの予防、治療、支援のサービスへのアクセスを妨げ、HIV感染のリスクを大きくしている（25）。緊急時の食糧不安は治療の継続を困難にし、人々を取引的性行為に導き、HIVのリスクを高める可能性がある（26）。紛争や人道危機の際には、性暴力およびジェンダーに基づく暴力が増加してHIVの直接的な感染経路となる可能性があり、治療やサービスの障壁にもなる。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックでは、外国人に対する排斥と差別意識が高まり、HIV陽性の移民の間で（1）新型コロナウイルス検査で陽性反応が出る、（2）HIV陽性である、（3）移民である、という三重のスティグマに直面し、メンタルヘルスが悪化することがしばしばあった（27）。人道危機により、個人情報を守られなくなれば、HIV陽性者は支援を求めることにも消極的になりがちである。



スポットライト：ペルー

ペルーでは、不平等解消に向けた枠組みとグローバルパートナーシップへの参加準備を進める中で、HIV対策に関連するさまざまな部門が議会と協力し、エイズ関連の死亡を防ぐためにHIV陽性の移民やキーポピュレーションの人たちの国民健康保険加入を認めるよう改革に取り組んでいる。



「グローバルパートナーシップはスティグマと差別について議論する機会となります。例えばカザフスタンでは、人権団体との協力を強化して、人権と差別について議論し、同時にスティグマインデックスの結果を検討するそれぞれのプラットフォームを設けました」

グローバルパートナーシップ原則実施支援カザフスタン調整官（2023年3月29日）



スポットライト：イラン



イランでは、グローバルパートナーシップがスティグマと差別の解消策を策定し、国家HIV戦略計画に組み込むなど、それぞれに相乗効果を上げられる枠組みを提供した。イラン国内ではこの結果、緊急事態においても質の高いHIVサービスを提供する体制の強化が図られ、救急医療に従事する人は個人情報を守り、緊急時におけるサービスを利用しやすくするための訓練を受けている。グローバルパートナーシップに対し、イラン政府が約束したことの直接の成果として、公的および民間の医療機関に対し、HIV陽性者とキーポピュレーションの人たちをスティグマや差別から守り、いかなる種類の差別も受けずにHIVの治療とケアが受けられるようにすることを義務付ける新たな規制も設けられた。



「HIVの分野で長く働いてきた者として、HIV陽性者が医療センターを信頼してケアにも積極的に関与し、ポジティブクラブというHIV陽性者のためのセンターに定期的に参加するようになったことをこの数年間、はっきりと目撃しています」

HIV分野で30年以上の経験を持つイランのケアサービス提供者（2023年6月6日）



HIV関連の研究開発への関心を高めるためのサイクリング大会
© UNAIDS

すべての分野で HIV 関連のスティグマと差別に取り組む 代表的なグローバルパートナーシップ参加国



タイは、グローバルパートナーシップをプラットフォームとして活用し、HIVに関連するあらゆるかたちのスティグマと差別をなくすことに取り組む国の代表例となっている。2014年段階ではすでに、タイ国内で医療現場に焦点を当てたHIV関連のスティグマと差別の撤廃を戦略目標として設定していた。グローバルパートナーシップに参加した2020年には対象を拡大し、医療だけでなくすべての環境においてHIV関連のスティグマや差別の解消に取り組むようになった。2022年半ばには、国家エイズ評議会が承認した「あらゆる形態のHIV関連スティグマと差別撤廃に向けた多分野国家行動計画：2022 - 2026」により、6分野すべてにわたって予算措置を伴う多分野の対応が正式に定められている。国家エイズ評議会の人権促進と保護に関する小委員会が、複数の利害関係者とともに、この計画の実施、監督にあたる義務を負っている。



ジャマイカの壁画 © UNAIDS

世界エイズ戦略の10-10-10ターゲット達成に向け、グローバルパートナーシップが一貫した対応と説明責任を果たせるよう調整を行っているもう1つの国がジャマイカである。2020年にジャマイカが参加して以来、グローバルパートナーシップは5分野でスティグマと差別をなくすための5年計画策定を主導し、ジャマイカが毎年、人権に関連するすべての対応策の概要などをまとめた報告書を作成している。さらに、ジャマイカ・パートナーシップが作られ、2022年にはオンラインのモニタリング・ダッシュボードが開設された。ダッシュボードには、各パートナーとの協力で実施中の活動がすべて示され、進捗状況、および根強く残るスティグマや差別への対応が必要となっている分野に関する重要情報が提供されている。こうしたエビデンスは、人権対策がジャマイカの国家戦略計画、およびエイズ流行終結に向けた世界的なターゲットの達成に沿うものであること示しており、グローバルファンドの新たな補助金申請にも不可欠となる

タイ、ジャマイカ両国は2022年、重点協力国に選ばれ、UNAIDS-CDC協力協定の参加国にもなった。UNAIDSとグローバルパートナーシップの力添えによって両国は米CDC-PEPFARの「触媒となる財政支援」を受け、HIVに関連するあらゆるかたちのスティグマと差別解消に向けた国としての対応をさらに強化するとともに、それぞれの地域のモデルとなる戦略を実行している(28)。



すべての人が人権を享受し、健康と尊厳、幸福を最大限に実現するにはどうしたらいいの。その方法はすでに分かっています。それを実現しましょう! 止めることのできないパートナーシップの構築に向けて力を合わせましょう。今すぐグローバルパートナーシップに参加してください。



REFERENCES

- 1 UNAIDS Global AIDS Update 2022: In Danger. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2022 ([Full report — In Danger: UNAIDS Global AIDS Update 2022 | UNAIDS](#)).
- 2 A/RES/70/1. Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development. New York: United Nations General Assembly; 2015 (https://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/70/1&Lang=E).
- 3 Sustainable Development Goals. New York: United Nations Department of Economic and Social Affairs (<https://sdgs.un.org/goals>).
- 4 Global AIDS strategy 2021–2026. End inequalities. End AIDS. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2021 (<https://www.unaids.org/en/Global-AIDS-Strategy-2021-2026>).
- 5 A/RES/75/284. Political declaration on HIV and AIDS: ending inequalities and getting on track to end AIDS by 2030. New York: United Nations General Assembly; 2021 (<https://undocs.org/A/RES/75/284>).
- 6 Evidence for eliminating HIV-related stigma and discrimination: guidance for countries to implement effective programmes to eliminate HIV-related stigma and discrimination in six settings. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2020 (<https://www.unaids.org/en/resources/documents/2020/eliminating-discrimination-guidance>).
- 7 Guidance by the Global Partnership for Action to Eliminate all Forms of HIV-related Stigma and Discrimination. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2023. (https://www.unaids.org/en/resources/documents/2023/GlobalPartnershipStigmaDiscrimination_Guidance).
- 8 Who counts? What counts? And who counts what? An advocates' guide to monitoring stigma and discrimination reduction in the Global Partnership for Action to Eliminate all Forms of HIV-related Stigma and Discrimination. South Africa: Global Network of People Living with HIV; 2023. (https://gnpplus.net/wp-content/uploads/2023/10/GNP-Who-counts-what-counts-and-who-counts-what_-ENG-FINAL.pdf).

- 9 Practical guide to ending HIV-related stigma and discrimination. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2023. (https://www.unaids.org/en/resources/documents/2023/GlobalPartnershipStigmaDiscrimination_PracticalGuide).
- 10 Addressing stigma and discrimination in the COVID-19 response: applying the evidence of what works from HIV-related stigma and discrimination in six settings to the COVID-19 response. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2020 (<https://www.unaids.org/en/resources/documents/2020/covid19-stigma-brief>).
- 11 Golub SA, Gamarel KE. The impact of anticipated HIV stigma on delays in HIV testing behaviours: findings from a community-based sample of men who have sex with men and transgender women in New York City. *AIDS Patient Care STDs*. 2013;27(11):621–627.
- 12 People Living with HIV Stigma Index. Amsterdam: People Living With HIV Stigma Index (<http://www.stigmaindex.org/>).
- 13 ONUSIDA et al. 2021. Charte nationale pour la qualité des soins et les droits des patients en République Centrafricaine (<https://www.unaids.org/en/keywords/central-african-republic>).
- 14 Miles to go: Global AIDS update 2018. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2018 (http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/miles-to-go_en.pdf).
- 15 Rubenstein LS, Amon JJ, McLemore M, et al. HIV, prisoners, and human rights. *Lancet*. 2016;388:1089–1102.
- 16 Advancing HIV justice 2: building momentum in global advocacy against HIV criminalisation. Brighton and Amsterdam: HIV Justice Network and Global Network of People Living with HIV; 2016 (http://www.hivjustice.net/wp-content/uploads/2016/05/AHJ2_final2_10May2016.pdf).
- 17 State-sponsored homophobia 2019. Geneva: International Lesbian, Gay, Bisexual, Trans and Intersex Association; 2019 (https://ilga.org/downloads/ILGA_State_Sponsored_Homophobia_2019.pdf).
- 18 UNAIDS applauds Argentina for the approval of its new human rights-based HIV law. Press Centre: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2022 ([UNAIDS applauds Argentina for the approval of its new human rights-based HIV law | UNAIDS](https://www.unaids.org/en/news/press-centre/2022/05/10/20220510-UNAIDS-applauds-Argentina-for-the-approval-of-its-new-human-rights-based-HIV-law)).

- 19 Central African Republic: New HIV law focussing on the social protection of people living with HIV voted by parliamentarians. Central African Republic: HIV Justice Network; 2022
([Central African Republic: New HIV law focussing on the social protection of people living with HIV voted by parliamentarians | HIV Justice Network](#)).
- 20 HIV stigma and discrimination in the world of work: findings from the People Living with HIV Stigma Index. Amsterdam: Global Network of People Living with HIV; 2018 (https://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---dgreports/---dcomm/documents/publication/wcms_635293.pdf).
- 21 McGoldrick C. HIV and employment. *Occ Med.* 2012;62:242–253.
- 22 HIV and young people. Brighton: Avert (https://www.beintheknow.org/understanding-hiv-epidemic/community/hiv-and-young-people#footnoteref74_f0fgm9q).
- 23 Teachers living with HIV. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS Inter-Agency Task Team on Education; 2008 (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000158673>).
- 24 Joint United Nations Programme on HIV/AIDS, United Nations Population Fund, United Nations Children's Fund, et al. International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach. Paris: United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization; 2018 (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000260770>).
- 25 Humanitarian crises and HIV. Brighton: Avert (<https://www.avert.org/professionals/hiv-programming/emergencies-conflicts-and-hiv-response>).
- 26 Anema A, Vogenthaler N, Frongillo EA, et al. Food insecurity and HIV/AIDS; current knowledge, gaps, and research priorities. *Current HIV/AIDS Rep.* 2009;6:224–231.
- 27 UNAIDS, IOM: People on the move living with HIV must have access to COVID-19 vaccines. Geneva: Joint United Nations Programme on HIV/AIDS; 2021 (UNAIDS, IOM: [People on the move living with HIV must have access to COVID-19 vaccines | UNAIDS](#)).
- 28 Updates on the Global Partnership for Action to End All Forms of HIV-related Stigma and Discrimination. UNAIDS Programme Coordinating Board; 2022 ([Agenda Item 5: Update on the Global Partnership to eliminate all forms of HIV-related stigma and discrimination | UNAIDS](#))

